

## 式 辞

あえかなる「なごり雪が」舞い、春の優しい雨へと移りゆく本日、ここに、令和5年度・学校法人一関学院・一関学院高等学校・卒業式を挙行できますことは、この上ない喜びでございます。

ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、並びにご家族の皆様には、日頃から、本校の教育活動に深いご理解と、温かいご支援を賜り、さらには巣立ちゆく卒業生の門出を祝福して下さい、衷心より感謝と御礼を申しあげます。

ただ今、卒業証書を授与した一一四名の卒業生の皆さん、卒業おめでとございます。みなさんの卒業証書には仲間とともに過ごした様々な思い出と、かけがえのない高校3年間の重みが刻み込まれています。

今日を迎えるまで、皆さんは直向きに努力を積み重ねてきました。多くのクラブ活動で、市民や県民の皆さんから称賛され、本校の歴史を塗り替えるほどの活躍ぶりは、内外から高く評価されました。学習面でも着実な努力が実を結び、進路目標達成という形で成果が現れました。先ほどの表彰状各賞は、それを如実に物語っています。

3年生として常に学校の先頭に立ち、リードしてくれた皆さんの成長を心からうれしく思いますし、先輩の背中を追った2年生、1年生も着実に成長しています。

イギリスの学者で人材論・組織論の世界的権威、リンダ・グラットンと、ロンドン・ビジネススクールの教授、アンドリュー・スコットの著書、「100年時代の人生戦略・ライフ・シフト」がベストセラーとなり、注目を集めています。

かつて、内閣官房「人生100年時代 構想 推進室」でも、この本から引用し、2007年に日本で生まれた子供は、107歳まで生きる確率が、50パーセントもあると発表しました。これは現在の高校生の年代を示したものです。

平均寿命が延びて、誰もが長寿社会をどう生き抜くか。働き方、学び方、結婚、子育て、人生のすべてが変わる。これまでにない新しい人生のビジョンが必要になると、この本は示唆しています。

皆さんは、新たな価値観や人生観をもって、急速に変化する社会に対し、生き方を模索しなければなりません。

現在、生成AIなど様々なテクノロジーが急速に進化を遂

げる一方、気候変動や異常気象、戦争や民族紛争、社会問題、不慮の事故、そして疫病。国内では人口減少など、これまでとは比較にならないほど劇的なスピードで、大きな変化が起こり、未来予測が極めて困難な時代になりつつあります。

この目まぐるしく変化し、複雑な時代は、「VUCAの時代」と呼ばれています。変動性・不確実性・複雑性・曖昧性の英語の頭文字を並べたもので、近未来を予感させる言葉です。

未来を担う青少年にとって「VUCAの時代」は、ある種不安な響きに聞こえ、生き方に迷いが生じるかもしれません。

しかし、臆することはありません。皆さんは未来を力強く生き抜く可能性を秘めています。

「Z世代」と呼ばれる皆さんは、物心ついた時から、インターネット環境が身近にあり、デジタルの恩恵を幼少期から享受し、さまざまなデバイスを使いこなすデジタルネイティブです。

また、ITリテラシーにも優れ、SNSでの情報収集やコミュニケーションを自在にこなす能力にも長けています。

さらに、他者の価値観や多様性に触れながら、人

を区別せず接することも身に付いています。

卒業生の皆さんが生きる未来社会は、そのような皆さんの多様性に富んだ思考力や、しなやかな発想、思いやりと向上心に溢れた人間力、そして、新たな価値観を生み出す能力に期待されています。

予測できない時代の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を引き出し、より良い社会と、幸福な人生の作り手となってくれることを願っています。

いかに時代が変わろうとも、生涯学び続けなければならぬことに変わりはありません。どんな時代が到来しても、最後は個々の努力が、人生を豊かなものにしてくれます。

才能の差は小さい。されど努力の差は大きい。さらに継続する力の差はもっと大きいのです。

卒業後も、取り巻く情報を的確に取捨選択し、本を読み、よく学び、多くの知識を吸収してください。順風満帆な時も、逆境の時も一関学院で培った逞しく生きる力と利他の精神を以て、前進あるのみです。

結びに、ご家族の皆様申し上げます。本日はお子様のご

卒業、誠におめでとうございます。お子様の健やかな成長を願い、支えてこられ、振り返れば、さぞご苦労も多かったことと推察いたします。改正民法により十八歳の皆さんは、既に「成人」となられました。

本日、成長されたお子様の姿に、感慨もひとしおのことと存じます。

また今日まで、本校にお寄せいただきました、ご支援、ご協力に対し、教職員一同、心から感謝と御礼を申し上げます。

輝かしい未来に向けて旅立つ、卒業生一人一人の前途に、幸多からんことを祈念して式辞といたします。

令和六年三月一日

学校法人一関学院 一関学院高等学校

校長 小野寺 啓一